

佐賀県研究成果情報

イノシシによる農作物被害の拡大と耕作放棄地との関連					
<p>[要約] 佐賀県のイノシシの生息地域は、1970年代と比較して1990年代に拡大しているが、その拡大した地域では1990年の耕作放棄地率が高い傾向にあり、さらに同地域に果樹園が多く分布している傾向がみられ、果樹での農作物被害が1990年代より急激に増加していることと関連していると考えられる。</p>					
果樹試験場・常緑果樹研究担当			連絡先	0952-73-2275	
				kajushiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	果	樹	専	門	栽培
				対象	温州みかん

[背景・ねらい]

近年、佐賀県ではイノシシによる農作物への被害が急増しており、被害軽減対策として県では捕獲や電牧柵等の防護柵設置への補助を行うなどの対策をとっている。一方、イノシシの生息地域や生息数については、正確に把握する方法がなく、被害増加の要因についても把握されていないのが現状である。ここではGIS(地理情報システム)を利用して、佐賀県における過去からのイノシシの生息状況の変遷を把握し、耕作放棄地や土地利用との関連を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 佐賀県におけるイノシシの生息は、1970年代は県北部、南西部の山間部の一部地域に限られていたが1990年代にはその周辺地域や県北西部へ広がり、現在は県南部、南西部の一部地域を除いた県内全域に生息が広がっている(データ略)。
2. イノシシによる農作物被害は1990年代に入って急増しており、特に果樹における被害増加が著しい(表1)。
3. 1990年代に新たに広がったイノシシの生息地域では、1990年の農業集落の耕作放棄地率が高く(図1)、同地域の土地利用において果樹園が多く分布している傾向がみられる(データ略)。

[成果の活用面・留意点]

1. イノシシの生息データは、環境省の自然環境保全基礎調査より5kmメッシュ区画における生息の有無を調査されたものを用いた。耕作放棄地率は、農林水産省の農業センサスの農業集落カードにおける農業集落単位の耕作地面積、放棄地面積より算出した。果樹園の分布は、環境省の現存植生図より抽出して利用した。
2. イノシシの被害軽減対策では、捕獲や防護柵の設置とともに、餌場や住处となり得る耕作放棄地の管理を含めて総合的な対策を講ずることが重要である。
3. さらにGPS(位置情報システム)等を利用してイノシシの詳細な生息地域を把握することにより、本情報より詳しいデータ解析や被害軽減対策の策定に役立てることが可能と考えられる。

[具体的データ]

表 1 . イノシシによる農産物被害金額¹⁾の推移

	金額 (十万円)			
	1987 年	1991 年	2001 年	2005 年
水稲	257	478	1,240	1,294
果樹	16	597	1,283	1,053
野菜	-	141	223	202
いも類	28	72	142	135
その他	88	69	794	313
総計	389	1,357	3,682	2,997

1) 県生産者支援課調査

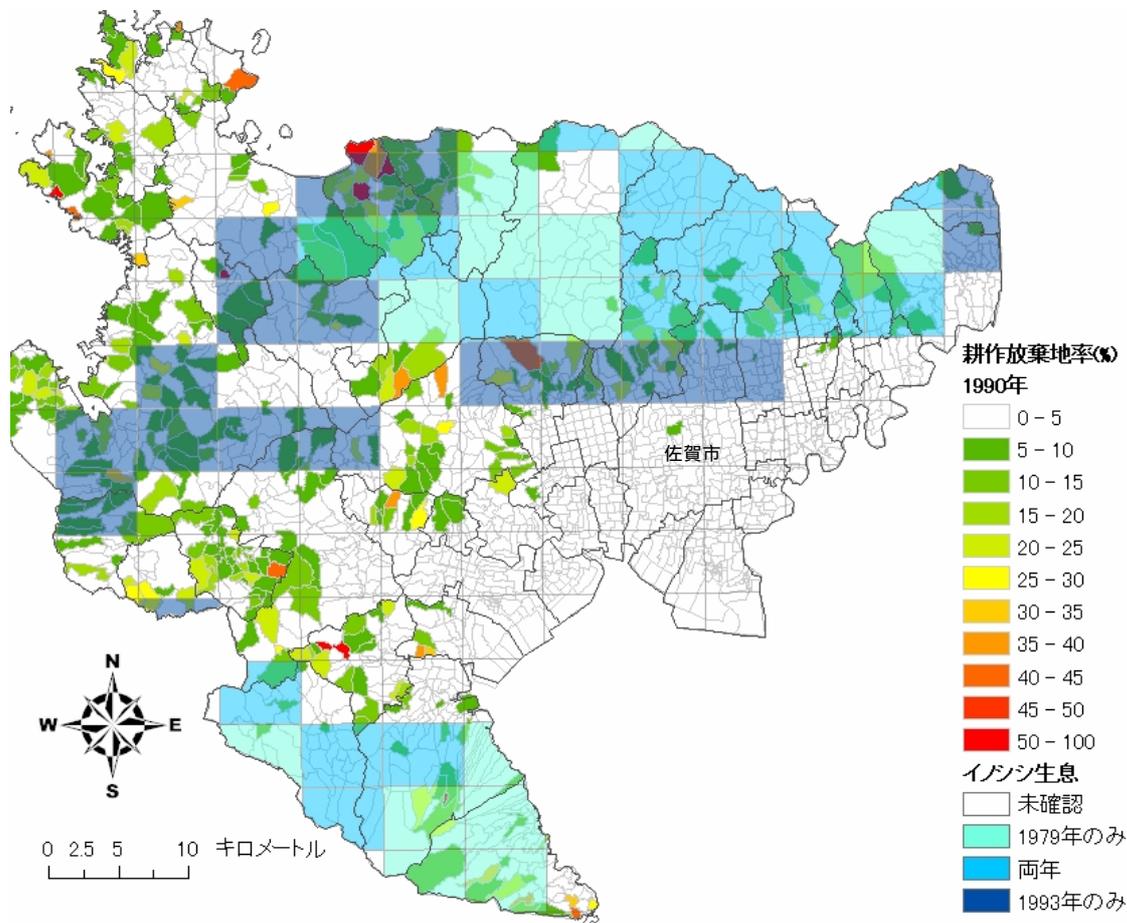


図 1 . 1979 年、1993 年のイノシシの生息地域と 1990 年の農業集落の耕作放棄地率との関係

[その他]

研究課題名 : カンキツ園地情報の収集・解析に基づいた園地診断による総合的な栽培管理改善

予算区分 : 県単

研究期間 : 2004 ~ 2008 年度

研究担当者 : 貝原洋平、デイビットスプレイグ、川崎敦之、新堂高広